

# 冬の使者「ハクチョウ」

南部久男

ハクチョウといえば、私たちに冬のおとずれを告げる代表的な冬鳥です。ユーラシア大陸には、オオハクチョウ、コハクチョウ、コブハクチョウの三種が生息し、日本にはオオハクチョウとコハクチョウがやってきます。動物園や公園でみかけるのは、コブハクチョウで、人間が飼い慣れたヨーロッパ原産の鳥です(図1)。野生のコブハクチョウは、朝鮮半島にはやってきますが、日本では1933年に八丈島で迷鳥として確認されたにすぎません。しかし、動物園や公園で飼っていたもの

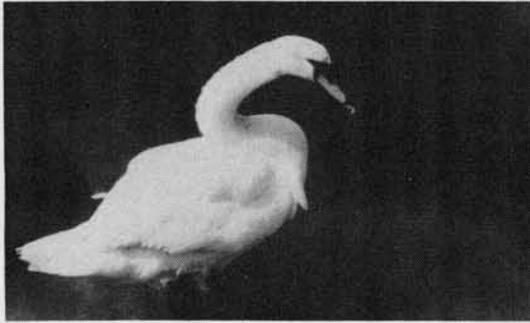


図1 高岡市古城公園のコブハクチョウ

が逃げ出し、野外でも時々みつけることがあります。コブハクチョウを含め、日本でみられるこれらのハクチョウは、おもに、くちばしで見分けることができます(図2)。

コブハクチョウは、名前の通り、くちばしの付け根に黒いこぶがあるので、すぐに他の二種とは区別できます(幼鳥にはこぶはない)。オオハクチョウのくちばしは、付け根の黄色い部分が、くちばしの先の方までくい込んでいますが、コハクチョウでは、先の黒い部分が基部の近くまで達し、黄色の部分が少ないのが特徴です。

三種の繁殖地を比較すると、コハクチョウが最

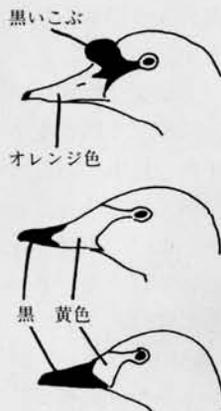


図2 日本で見られる三種のハクチョウのくちばし(上から、コブハクチョウ、オオハクチョウ、コハクチョウ)

も北方で、北極圏周辺のツンドラ地帯、オオハクチョウは、コハクチョウより南で、ユーラシア大陸の北部です。冬になると、コハクチョウは、イギリス、中国東部、朝鮮半島、日本などに渡り、オオハクチョウは、イギリス、ヨーロッパ北西部、黒海やカスピ海の東部、日本などに渡ってきます。コブハクチョウは、オオハクチョウやコハクチョウより南のユーラシア大陸中部で繁殖し、渡りの範囲も大きくありません。ハクチョウは、家族でまとまって越冬しますが、北で繁殖するものほど家族の結びつきが強いことが知られています。最も北で繁殖するコハクチョウは、その年に生まれた子供のハクチョウと、前年に生まれたハクチョウもいっしょにまとまって行動します。しかし、オオハクチョウでは、前年生まれのハクチョウが家族の群れに加わることは知られていません。また、コブハクチョウでは、冬に親鳥は繁殖の準備に入り、幼鳥はなわばり内から追い出されてしまいます。これは、北方ほど繁殖、つまり、巣をつくり、卵を産み、卵をあたため、ひなを育てるという期間が短く、そしてその後何千キロもの長い渡りをしなければならないため、行動にむだのないように、家族の結びつきを強めるためだと考えられています。

家族で日本にやってくるオオハクチョウとコハクチョウが最初に足を踏み入れるのは、北海道です。その後本州へ南下していきます。本州には、10月中旬頃少数が渡り始め、12月から2月頃まで最も数が多くなります。翌春は3月上旬から4月上旬にかけて去ってしまいます。オオハクチョウはおもに北日本や、日本海側の地域に1万~1万数千羽程やってきますが、コハクチョウは、オオハクチョウの群れにまじっておもに日本の南西部に2~3千羽程やってくるにすぎません。北海道にはクッチャロ湖、ポロ沼、嵐蓮湖、塩根沼など有名な越冬地、中継地がいくつもあり、特にシベリアへ旅立つために集結する3~4月には数が多くなります。本州では、青森県大湊湾、宮城県伊豆沼、新潟県瓢湖などが有名です。西日本では、島根県中海が、コハクチョウの越冬地としてよく知られ

ていますが、最近干拓工事が進み、ねぐらや採餌場所が少なくなることが心配されています。

富山県にも数は多くありませんが、二種のハクチョウが毎年やってきます。オオハクチョウは越冬していきませんが、コハクチョウはすぐに南へ飛び立っていきます。しかし、隣の石川県河北潟では居心地がよいのか数十羽のコハクチョウが越冬

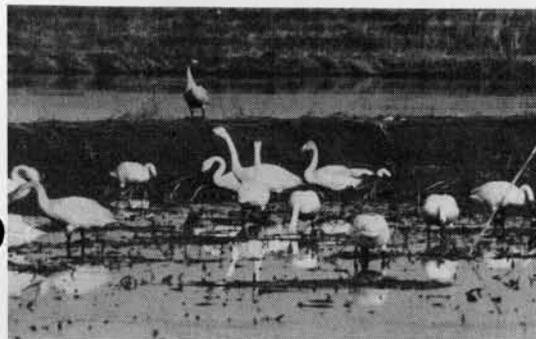


図3 コハクチョウ(石川県河北潟、1983年1月16日、太田道人氏撮影)

します。富山市と小杉町の境にある田尻池は、オオハクチョウが毎年やってくる池として有名です。1971年から毎年10羽程やってきます(表3)。早い時は11月中旬、例年だと12月の初～中旬にやってきます。渡来当初は、首をまっすぐのぼし、周囲を警戒しますが、落ちつくると首をS字にまげ、優雅に泳いだり、水中に首をつつ込み、水草を食べるようになります。

また、付近の人がぐず米やパンくずを与えているため、人に対する警戒心ははだいに薄らいでいくようです。翌春の3月に入ると池の上空を時々旋回するようになり、北への旅立ちの準備を始めています。

田尻池は、最近有名になり、日曜日ともなると



図4 オオハクチョウ(富山市田尻池、1983年2月27日)

家族づれでにぎわいます。人間に慣れてきますが、あまり近づかないで、遠くから望遠鏡や双眼鏡で観察してください。

年	場 所	数
1960	黒部市河口	
"	富山市和合町	
1961	新湊市放生津潟	
1964	富山市栃谷大沢池(最も早い渡来は12月18日、遅い渡去は3月2日、池は1971年ほ場整備のため消失)	34羽 (1969年)
1971	城端町5ヶ村溜池	
1970	小杉町黒河女池	
1972.11.4	氷見市仏島付近	6
1974	高岡市高田島地内小矢部川	
"	小杉町勅使池池	
"	高岡市佐賀地内小矢部川	
1975	婦中町友坂池	
"	富山市針原中町	
1979	富山市中島地内神通川	
1980.2.13	入善町上飯野地内黒部川	4(3)
1980.11.28	黒部市立野の湿田	1(1)
1981.12.17	新湊市越の潟海岸埋め立て地	5(3)
1982.1.23	小矢部市矢水町地内小矢部川	8
1982.10.26	朝日町赤川地内小川	3
1971~1982	富山市山本田尻池	

表1 富山県のオオハクチョウのおもな記録

年月日	場 所	数
1975.11.15	富山市中島地内神通川	2
1975.11.19	新湊市足洗潟	2
1981.2.13	富山市中島地内神通川	3
1981.11.2	砺波市安川太田橋上流庄川	6(3)
1981.12.6	小矢部市下中の水田	5(3)
1982.10.26	新湊市~高岡市高新高大橋上流庄川	3(0)
1982.10.26	朝日町赤川地内小川河口	1
1983.1.16	小矢部市矢水町	6
1983.10.21	富山市常願寺川河口	4

表2 富山県のコハクチョウのおもな記録

年度	初渡来と渡来数	最大渡来数	渡 去
1977	— —	13	
1978	— —	11	
1979	12月14日 3	12(4)	2月12日頃
1980	11月16日 11(8)	13	3月上旬
1981	12月3日 5(1)	14	3月中旬
1982	12月16日 3(1)	19(6)	

表3 富山市田尻池のオオハクチョウの記録

(注) 表1~3の記録で、1980年以前の記録はおもに、富山県発行の富山県の鳥獣(1980)により、それ以後はおもに富山新聞、北日本新聞の記事による。( )は幼鳥。

(なんぶ ひさお 脊椎動物担当)